

平成 19 年度 大牟田市自然環境調査報告書

延 命 公 園 調 査



平成 2 0 年 3 月

**大牟田市自然環境調査研究会
大牟田市環境部環境保全課**

はじめに

自然環境は、人間を含むすべての生物にとって、最も重要な生存基盤を構成する環境要素であり、多様な生態系を維持し豊かな自然環境を地域の財産として、次世代へ引き継いでいくことが大切です。

本市では、平成 14 年度より「大牟田市環境基本計画」を施行し、自然環境の保全を重要な課題の一つと位置づけ、快適環境都市を目指して諸事業を推進しています。自然環境調査は、本市の自然環境の現状や貴重な動植物等の生息状況を調査し、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民の啓発に資するために行っています。

平成 19 年度は、延命公園の調査を実施しましたので報告します。

目 次

1	調査の目的	1
2	調査概要	1
3	延命公園の概要	2
4	現地調査	
(1)	春季調査	3
(2)	秋季調査	12
5	まとめ	19

1 調査の目的

延命公園は、大きな樹木や深い谷など豊かな自然に囲まれ、市中心部にある市民に最も親しまれている都市公園で、自然観察会やウォーキングなども盛んに行われている。また、同公園には、国及び県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されているカスミサンショウウオも生息している。しかし、同公園の自然環境調査報告書として取りまとめた物がないたため、今回、延命公園の植物、昆虫、両生類、鳥類などの生物調査及び地形・地質調査を行うものである。

2 調査概要

○調査場所

延命公園：フレンズピアおおむた～延命配水地～旧日本庭園～フレンズピア
おおむたを周回するルート（調査ルート図添付）

＊地形・地質調査は延命公園及び延命中学校東側から片平墓地付近（春季）

○調査日時

植物が花をつける時期で、同定が行い易く、昆虫も多い春季及び秋季に調査を行う。

①春季調査：平成19年5月12日（土）9時00分～14時30分 天候：晴

②秋季調査：平成19年9月29日（土）9時00分～12時30分 天候：曇り

○調査内容

植物、昆虫、鳥類、両生類等の生物調査及び地形・地質調査(春季)を行う

＊補足調査は、各委員が行う

○調査員

・大牟田市自然環境調査研究会委員

専 門 分 野	氏 名	専 門 分 野	氏 名
生態系	白石 哲	鳥類	永江 和彦
地形・地質	古藤 文彦	爬虫類・両生類	松永 公幸
植生・植物	矢納 明子	昆虫類 水生生物	中嶋 秀利
ほ乳類	尾形 健二	海産生物	嶺井 久勝

・調査協力：大牟田生物愛好会 黒岩展子、吉田日出子

・調査同行：環境保全課職員 怡土朝幸、奥園光彦

3 延命公園の概要

延命公園は、南部市街地のほぼ中心部に位置し、諏訪川に隣接する標高 52m の小高い丘陵地にある。現在、延命公園として広く市民に親しまれている地域は、本来は片平山と呼ばれ、一昔前までは山全体が松の山と形容されるほど、アカマツが山一面に繁茂していた。

1940 年から大牟田市で最初の都市公園として整備がはじまり、体育館、プール、動物園などの施設が建設されるとともに、クスノキ、ムクノキなどの自然林からサクラ、スギ、イスノキなどの植栽が、片平山の北側、西側、南側へと進められた。その結果、現在も自然植生が幾分残っている地域は、東側谷部の旧日本庭園周辺に限られている。

片平山は、太古の大昔（始新世、5500万年～3800万年前）の古有明海に積もった土砂が盛り上がった地質（万田層群勝立層）と言われている。本来は海だった場所が隆起してできた証として、古有明海のそれぞれの年代に生息分布していた動物や植物の化石（マルフミガイ、モシオガイ、カニの仲間、サンゴの仲間、クスノキの実、チシャノキなど）が数多く発見、確認され、その当時の海や陸地の様子を伺い知ることが出来る。

太古から現在まで、気の遠くなるような年月を経過して、海食、隆起、侵食、沈下などが繰り返され、片平山（有明海の東岸海岸線を形成する丘陵地形）を形成するに至っている。それから縄文、弥生の時代を超えて片平山の植生や生物相の変遷が繰り返され、現在、植物種として242種、人為植栽種を含めると約300種の植物が確認されている。

注目すべきは、昔、海の近くだった環境を立証する植物（ヒルガオ科アオイグケ）の分布存在である。片平山西側斜面の墓地の一角に確認することができるが、黒崎公園西側道路の一角、吉野の長蓮尾堤の一角にも確認できる。これらの地域を線で結ぶと大昔の海岸線とぴったり符合するのである。

さらに、生きた化石と称されるカスミサンショウウオが現代まで生きながらえているのは、片平山の地形環境とその表土上に繁茂するクスノキを主体としたクロキ、クロガネモチなどの常緑樹やアカメガシワ、イヌビワ、ムクノキなどの豊かな落葉広葉樹林とシダ類やメダケ、ネザサなどの下草群が保全され、梅雨、降雨時などに水溜りが形成される環境の存在が重要な生命線であったと考えられる。

（大牟田の野生植物：2003年9月大牟田生物愛好会編集・発行より抜粋）

4 現地調査

(1) 春季調査

【植 物】

春季調査では、シダ植物 14 科 23 種、裸子植物 1 科 2 種、被子植物 59 科 164 種（双子葉類 52 科 128 種、単子葉類 7 科 36 種）の合計 74 科 189 種を確認（同定）できた。以下の表に示す。

【確認（同定）できた植物】 記号 f:花 S:実 少:個体数が少ない k:帰化植物
＊初記録

NO.1

科名	和名	記号	科名	和名	記号
【シダ植物】	14 科 23 種		(ブナ科)	クヌギ	
トクサ科	スギナ		ニレ科	ムクノキ	
ゼンマイ科	ゼンマイ			エノキ	
キジノオシダ科	キジノオシダ		クワ科	イヌビワ	
ウラジロ科	コシダ			ホソバイヌビワ	
	ウラジロ		イラクサ科	カラムシ	
フサシダ科	カニクサ		タデ科	ミズヒキ	
コバノイシカグマ科	フモトシダ			シンミズヒキ	
	ワラビ			ミゾソバ	
ホンダウシダ科	ホラシノブ			ギシギシ	f
イノモトソウ科	イノモトソウ			ヤノネグサ	＊
チャセンシダ科	トラノオシダ		ナデシコ科	オランダミミナグサ	f
シシガシラ科	オオカグマ			ツメクサ	f少
オシダ科	オニヤブソテツ			ウシハコベ	f
	ヤブソテツ			ミドリハコベ	
	ベニシダ		ヒユ科	イノコヅチ	
	ナカバノイタチシダ		マツブサ科	サネカズラ(ビナソカズラ)	
	イノデ		クスノキ科	クスノキ	f
	トウゴクシダ	少＊		ヤブニッケイ	
ヒメシダ科	ホシダ			タブノキ	
	コハシゴシダ			シロダモ	
イワデンド科	シケチシダ		キンボウゲ科	キツネノボタン	f
ウラボシ科	マメツタ		アケビ科	アケビ	
	ノキシノブ			ムベ	
【裸子植物】	1 科 2 種		ツツラフジ科	アオツツラフジ	
マツ科	アカマツ		ドクダミ科	ドクダミ	
	クロマツ		ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	少
【被子植物】	59 科 164 種		ツバキ科	ヒサカキ	
(1) 双子葉類	(52 科 128 種)		アブラナ科	ナズナ	
① 離弁花類	(36 科 86 種)			イヌガラシ	f
ヤマモモ科	ヤマモモ	少		タネツケバナ	f
ブナ科	アラカシ		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	
	コナラ		バラ科	オオシマザクラ	S 少

NO.2

科名	和名	記号	科名	和名	記号
(バラ科)	ヘビイチゴ		(セリ科)	セリ	
	オヘビイチゴ			ミツバ	
	ノイバラ	f		ノチドメ	
	オオフユイチゴ			オオチドメ	
	クサイイチゴ	f		ヤブニンジン	
	ヤブヘビイチゴ			オヤブジラミ	S
マメ科	ネムノキ		②合弁花類	(16科 42種)	
	ヌスビトハギ		ツツジ科	シャシャンボ	
	ヤハズソウ		ヤブコウジ科	マンリョウ	
	ネコハギ			ヤブコウジ	
	コメツブツメクサ	fk	サクラソウ科	オカトラノオ	
	ナツフジ			コナスビ	f
	ヤマフジ		ハイノキ科	クロキ	
	クズ		モクセイ科	ネズミモチ	
	カラスノエンドウ	S	キョウチクトウ科	テイカカズラ	f
	シロツメクサ	fk	アカネ科	ヘクソカズラ(ヤイトバナ)	
カタバミ科	カタバミ	f		ヤエムグラ	
	ムラサキカタバミ	fk	ムラサキ科	ハナイバナ	f
センダン科	センダン			キュウリグサ	f
フウロソウ科	アメリカフウロ	fk	クマツヅラ科	クサギ	
トウダイグサ科	アカメガシワ			ヤブムラサキ	
ウルシ科	ヌルデ		シソ科	キランソウ	f
	ハゼノキ			トウバナ	f
トベラ科	トベラ		ナス科	オオイヌホオズキ	*
モチノキ科	ナナメノキ		ゴマノハグサ科	トキワハゼ	f
	クロガネモチ			タチイヌノフグリ	fk
ニシキギ科	ツルウメモドキ		オオバコ科	オオバコ	f
	マサキ		スイカズラ科	スイカズラ	
ミツバウツギ科	ゴンズイ			ハクサンボク	
ブドウ科	ノブドウ		キキョウ科	ミゾカクシ	
	ナツツタ(ツタ)			キキョウソウ	
	ヤブガラシ		キク科	ヌマダイコン	
グミ科	ナワシログミ			ヨモギ	
スマレ科	タチツボスミレ			ヒヨドリバナ	
	コスミレ			チチコグサ	k
	ヒメスミレ	f		チチコグサモドキ	k
	ツボスミレ			ウスベニチチコグサ	fk
ウリ科	アマチャヅル			ウラジロチチコグサ	fk
	カラスウリ	fk		オオジシバリ	f
アカバナ科	アレチマツヨイグサ			ニガナ	
ウコギ科	カクレミノ			ハナニガナ	
	キツタ			イワニガナ	f
	ヤツデ			メリケントキンソウ	f
セリ科	マツバゼリ	k		ヨメナ	

科名	和名	記号	科名	和名	記号
(キク科)	ノゲシ	f	(イネ科)	ヌカボ	
	ヒメジョオン	k		マコモ	
	セイヨウタンポポ	fk		コブナグサ	
	オニタビラコ			ヒメコバンソウ	fk
	ヤブタビラコ			シバ	f少
(2) 単子葉類	(7 科 36 種)			トボシガラ	
ユリ科	オニユリ			チガヤ	f
	ヤブラン			ササクサ	
	サルトリイバラ			アシボソ	
ヤマノイモ科	ヤマノイモ			ススキ	
アヤメ科	シャガ			コチヂミザサ	
	ニワゼキショウ	fk		ネザサ	
	ヒメヒオウギズイセン	少k		メダケ	
	キシウブ	少		ミゾイチゴツナギ	
イグサ科	クサイ			スズメノカタビラ	f
	スズメノヤリ			カニツリグサ	少
ツユクサ科	ツユクサ			スズメノテッポウ	
	ヤブミョウガ		カヤツリグサ科	シラスゲ	f
	ノハカタカラクサ	fk		ジュズゲ	f
イネ科	カモジグサ			ヒメモエギスゲ	
	ヤマヌカボ			アオスゲ	少
			合 計 74 科 189 種		

※春季調査で期待していたアゼオトギリ（環境省絶滅危惧ⅠB類、福岡県絶滅危惧ⅠA類）とアオイゴケ（福岡県準絶滅危惧種）は確認できなかった。

オヘビイチゴ



被子植物 双子葉類 バラ科
オヘビイチゴ（葉が5葉）

ヘビイチゴ



被子植物 双子葉類 バラ科
ヘビイチゴ（葉が3葉）

ベニシダ



シダ植物 オンダ科 ベニシダ

(芽立ちの時、芽が紅い)

ゼンマイ



シダ植物 シダ科 ゼンマイ (食草)

【昆虫類・クモ類】

春季調査では、9 目 39 科 59 種の昆虫類及び 8 科 18 種のクモ類を確認できた。

NO.1

目科名	和名	目科名	和名
昆虫類			クロスジギンヤンマ
チョウ目	(8 科 22 種)	イトトンボ科	アオモンイトトンボ
アゲハチョウ科	アゲハチョウ	カワトンボ科	ハグロトンボ
	クロアゲハ	コウチュウ目	(12 科 14 種)
	ナガサキアゲハ	ハムシ科	クロウリハムシ
	アオスジアゲハ		イタドリハムシ
	モンキアゲハ	オトシブミ科	オトシブミ
	キアゲハ	テントウムシ科	ナナホシテントウ
シロチョウ科	モンシロチョウ		ニジュウヤホシテントウ
	キチョウ	コガネムシ科	コアオハナムグリ
シジミチョウ科	ベニシジミ	センチコガネ科	センチコガネ
	ヤマトシジミ	カミキリムシ科	ラミーカミキリ
	ルリシジミ	ゾウムシ科	オシロアシナガゾウムシ
	ムラサキシジミ	シデムシ科	オオヒラタシデムシ
ウラギンシジミ科	ウラギンシジミ	ホソクビゴミムシ科	ミイデラゴミムシ
ジャノメチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	ジョウカイボン科	ジョウカイボン
	クロヒカゲ	ゴミムシダマシ科	キマワリ
タテハチョウ科	コミスジ	ホタル科	ムネクリイロボタル
	アカタテハ	カメムシ目	(7 科 8 種)
	ヒメアカタテハ	オオホシカメムシ科	ヒメホシカメムシ
	ツマグロヒョウモン		オオホシカメムシ
	イシガキチョウ	カメムシ科	アオクサカメムシ
シャクガ科	ユウマダラエダシャク	ホソヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ
イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	サシガメ科	ヨコズナサシガメ
トンボ目	(4 科 7 種)	アメンボ科	アメンボ
トンボ科	シオカラトンボ	マツモムシ科	マツモムシ
	コシアキトンボ	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ
	オオシオカラトンボ	バッタ目	(3 科 3 種)
ヤンマ科	ヤブヤンマ	オンブバッタ科	オンブバッタ

NO.2

目科名	和名	目科名	和名
イナゴ科	ツチイナゴ	ハエ目	(2科 2種)
バッタ科	ショウリョウバッタ	ミバエ科	ウリミバエ SP
カマキリ目	(1科 1種)	ハナアブ科	ヒラタアブ SP
オオカマキリ科	オオカマキリ	ゴキブリ目	(1科 1種)
ハチ目	(1科 1種)	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ
コシブトハナバナ科	キムネクマバチ	合 計	9目 39科 59種

目科名	和名	目科名	和名
クモ目	(9科 18種)	アシナガグモ科	ヤサガタアシナガグモ
タナグモ科	クサグモ		アシナガグモ
	コクサグモ		ジョロウグモ
	アオオビハエトリ		コシロガネグモ
	ネコハエトリ	トタテグモ科	キノボリトタテグモ
	アリグモ		環境省準絶滅危惧種
	チャスジハエトリ	コガネグモ科	コガネグモ
ウズグモ科	コショウキグモ		オニグモ
ジグモ科	ジグモ		ナガコガネグモ
チリグモ科	ヒラタグモ	ササグモ科	ササグモ
		合 計	1目 8科 18種

イシガキチョウ



チョウ目 タテハチョウ科 イシガキチョウ

オオヒラタシデムシ



コウチュウ目 シデムシ科

オオヒラタシデムシ

キチョウ



チョウ目 シロチョウ科 キチョウ

【爬虫類・両生類】

春季調査では、以下の2種類の両生類を確認できた。

なお、爬虫類は確認できなかった。

ニホンヒキガエルの幼生(オタマジャクシ)

福岡県絶滅危惧Ⅱ類



カエル目 ヒキガエル科

ニホンヒキガエル

以前は、人家の庭でも見られるくらい普通にいたが、現在ではまれにしか見かけない。日本土着の種としては、最大のカエルで、頭胴長8~16cm。ずんぐりした体形で、背面に多数の丸い小隆起があり、鼓膜上縁に沿った大きな分泌線をもつ。林の中で、小動物を食べながら生活し、冬は地下で冬眠する。春に冬眠から目覚めて池などの産卵場所に移動し、1万個程度の卵を2本の長い紐状のゼリーに包んで産み分ける。幼生の全長は、35mm程度。変態時の個体数は、著しく少ない。

カスミサンショウウオの幼生

環境省絶滅危惧Ⅱ類、福岡県絶滅危惧Ⅱ類



サンショウウオ目 サンショウウオ科

カスミサンショウウオ

サンショウウオ類の中では、数少ない低地性の種で、山際や丘陵地に接した郊外の人家や耕地の近くに生息することが多い。堆積した石の隙間などに潜んでいることが多く、産卵期直前には、水辺の石の下で見つかることが多い。1~3月が産卵期。全長7~10cmの小型のサンショウウオ。体は細長く、四肢は短い。頭は扁平で、目は小さく突出する。背面は黄褐色から黒褐色。一般に尾の上下は黄色で、雄の尾は雌に比べて上下の幅が広い。

【鳥 類】

春季調査では、以下の 2 目 9 科 10 種を確認できた。

目科名	和名	目科名	和名
スズメ目	(8 科 9 種)	エナガ科	エナガ
スズメ科	スズメ	ヒタキ科	キビタキ
カラス科	ハシボソガラス	シジュウカラ科	シジュウカラ
	ハシブトガラス	キツツキ目	(1 科 1 種)
ツバメ科	ツバメ	キツツキ科	コゲラ
ヒヨドリ科	ヒヨドリ		
ウグイス科	ウグイス	合 計	2 目 9 科 10 種

ハシブトガラスの幼鳥の死がい



スズメ目 カラス科 ハシブトガラス

コゲラの巣



キツツキ目 キツツキ科 コゲラ

【陸産貝類】

春季調査では、以下の 3 種を確認できた。

科名	和名	確 認 場 所
オナジマイマイ科	ツクシマイマイ	延命中学校内
サカマキガイ科	サカマキガイ	旧日本庭園
キセルガイ科	キュウシュウナミコギセル 福岡県絶滅危惧種	フレンズピア近く

キュウシュウナミコギセルの成貝

福岡県絶滅危惧Ⅱ類



キセルガイ科 キュウシュウナミコギセル

殻は、細長い紡錘形で、殻高 1.5cm 程度。殻表は着褐色から緑褐色で光沢がある。殻口は洋梨形。石垣や瓦礫のすき間、磯や落ち葉の下などで生活する。卵胎生。

【地形・地質】

延命公園は、南北 700m、東西 300mほどの南北に長い区画をなしている。最高点標高は、52.0mであり、他いくつかの標高 20～40mの頂部が概ね南北方向に並ぶ。大牟田市街地南部を西に流れる諏訪川下流域の右岸側に位置しており、三池山西南部から西方に伸びる三池丘陵の西端にあたる。周辺の低台地は、かつては中位段丘下位面構成層をなす阿蘇 4 火砕流堆積物におおわれていたと想定され、段丘状の地形を形成している。

延命公園を構成する地層は、古第三系万田層群勝立層である。主として塊状の細粒砂岩からなり、一部、細粒砂岩とシルト層が互層をなす。1.5m厚ほどの風化体が認められ、塊状細粒砂岩層の表層は風化によって淡黄褐色を呈するが、新鮮な岩体では、灰青色の色調である。節理系が発達しており、節理系に起因する玉ねぎ状風化が見られる場合もある。

塊状細粒砂岩層内からは、ノジュール(団塊)や生痕(巣穴)化石が産出する。生痕化石は砂管状で、太さは 1～3cm、壁や芯は認められず、生活面との角度はほぼ垂直である。大牟田地域の生痕化石の一部については、アナジャコの仲間が造営生物としていわれているが、本地域の生痕化石については、詳細は不明である。岩体が堅硬なため生痕化石の標本全体を収集するには至らなかった。

ノジュールについては、勝立地区に産出する、堅固で断面が灰青色を呈するノジュールと同質のものと考えられる。同じく甲殻類化石をよく含有する calcaceous でシルト質なものがあるが、本調査では認められなかった。また、かつて延命公園の西側に接する延命中学校のプール工事の際、植物化石や二枚貝化石が数多く産出したことでも知られているが、塊状細粒砂岩層からは、植物化石の碎片や材化石が見出されることもある。

土壌については、乾性褐色森林土（赤色系）方城 1 に分類されている。古第三紀層由来の強粘性で赤色風化の進んだ土壌であり、通気・透水性等の理学的性は劣っているとされる。（A₀層）～A₁層は薄く、B・C層は緊密である。

延命中学校東側の勝立層



生痕(巣穴)化石



延命公園春季調査図



延命中学校東側の地層調査(勝立層)



調査出発前



ノジュール(団塊)：化石などを核として、地層の一部がまるみをおびて硬くなったもので、塊(かたまり)として取り出すことができる。ノジュールを割ると、保存状態の良い化石が含まれていることがある。



コゲラ



ニホンヒキガエルの幼生



カスミサンショウウオの幼生



A 分岐点



池のタテバチドメグサ(外来種)



クスの幹下部から出た若葉



セイヨウカタバミ



朽ち木とキノコ



クサキの葉上で休止する
ダイミョウセセリ



ツボスミレ



赤松

(2) 秋季調査

【植 物】

秋季調査では、シダ植物 6 科 9 種、被子植物 46 科 112 種（双子葉類 40 科 84 種、単子葉類 6 科 28 種）の合計 52 科 121 種を確認（同定）できた。春季調査で見出せなかった絶滅危惧種のアゼオトギリの自生とコクモウクジャクが秋季調査で確認できた。以下の表に示す。

【確認（同定）できた植物】 記号 f:花 S:実 少:個体数が少ない k:帰化植物
＊初記録 絶:絶滅危惧種

NO.1

科名	和名	記号	科名	和名	記号
【シダ植物】	6 科 9 種		アブラナ科	カラクサナズナ	
イワヒバ科	タチクラマゴケ			マメグンバイナズナ	S
ホングウシダ科	タチシノブ		トベラ科	トベラ	S
イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ		バラ科	フユイチゴ	S
オシダ科	オオカナワラビ			ナワシロイチゴ	
ヒメシダ科	ゲジゲジシダ		マメ科	ネムノキ	S
	ヤワラシダ			ヌスビトハギ	S
	ヒメワラビ			アレチヌスビトハギ	fk
イワデンタ科	コクモウクジャク	絶少		ヤブマメ	f
	シケシダ			コマツナギ	f
【被子植物】	46 科 112 種			ヤハズソウ	fSk
(1) 双子葉類	(40 科 84 種)			メドハギ	f
① 離弁花類	(30 科 54 種)			ハイメドハギ	f
ブナ科	アラカシ	S		ナツフジ	f
	クヌギ	S		クズ	f
	コナラ	S	トウダイグサ科	コニシキソウ	S
クワ科	イヌビワ	S		オオニシキソウ	Sk
ニレ科	ムクノキ	S		ハイニシキソウ	S
イラクサ科	ヤブマオ	f	ミカン科	カラスザンショウ	
	ナンバンカラムシ	fk	モチノキ科	クロガネモチ	S
タデ科	イヌタデ	f	ニシキギ科	マユミ	
	ミゾソバ	f	ミツバウツギ科	ゴンズイ	fS
	アレチギシギシ	Sk	ブドウ科	ノブドウ	S
	コギシギシ	S		エビヅル	S
オシロイバナ科	オシロイバナ	f	ウリ科	キカラスウリ	f
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	Sk	アカバナ科	コマツヨイグサ	fSk
ナデシコ科	ノミノフスマ	S	ウコギ科	タラノキ	S
アカザ科	シロザ	Sk		カクレミノ	S
ヒユ科	ヒナタイノコヅチ	S	セリ科	ツボクサ	
	イヌビユ	S		ヤブジラミ	S
マツブサ科	ピナンカズラ(サネカズラ)	fS	② 合弁花類	(10 科 30 種)	
キンポウゲ科	ウマノアシガタ	S	リョウブ科	リョウブ	
アケビ科	アケビ	S	ツツジ科	ネジキ	
	ムベ	S	ハイノキ科	クロミノサワフタギ	
ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	S	モクセイ科	ネズミモチ	S
ツバキ科	ナツツバキ	f		トウネズミモチ	
オトギリソウ科	アゼオトギリ S＊	絶少	アカネ科	アカネ	S

科名	和名	記号	科名	和名	記号
ムラサキ科	チシャノキ		イグサ科	スズメノヤリ	S
シソ科	レモンエゴマ	少	ツユクサ科	ツユクサ	f
	アキノタムラソウ	少		イボクサ	f
	ヒメジソ			ヤブミョウガ	fS
ナス科	アメリカイヌホウズキ	Sk	イネ科	コヌカグサ	S
	イヌホオズキ	S		ギョウギシバ	
キツネノマゴ科	キツネノマゴ	fSk		カモガヤ	S
キク科	ヌマダイコン	fS		メヒシバ	S
	ヨモギ	fS		オヒシバ	S
	アメリカセンダングサ	fk		コメヒシバ	S
	ガンクビソウ	fS		カゼクサ	S
	ヒヨドリバナ	fS		ニワホコリ	S
	アレチノギク	S		オニウシノケグサ	S
	オオアレチノギク	Sk		コバノウシノシッペイ	S
	ベニバナボロギク	fSk		ネズミムギ	S
	ヒメムカシヨモギ	f		トキワススキ	S
	ヨメナ	f		チカラシバ	S
	アキノノゲシ	f		クサヨシ	S
	ノボロギク	fk		イタチガヤ	S少
	アキノキリンソウ	f		キンエノコロ	S
	セイタカアワダチソウ	fk		エノコログサ	S
	サケバヒヨドリ	fSk		メアゼテンツキ	S
	ホソバアキノノゲシ	f	カヤツリグサ科	ハマスゲ	Sk
	オオオナモミ	Sk		シュロガヤツリ	
(2) 単子葉類	(6 科 28 種)				
ユリ科	ツルボ	fS			
	ヤブラン	f			
ヤマノイモ科	ニガカシュウ	S			
	カエデコロ	S			
		合 計	52 科	121 種	

アゼオトギリ

環境省絶滅危惧ⅠB類、福岡県絶滅危惧種ⅠA類



田のあぜなど水湿地にはえる多年草。茎はさかんに枝をわけて地をはいまわり、長さ 10～40cm、葉はやや小さく、基部は、ほとんど円形でわずかに茎を抱き、葉面を目に透かすと透明点がちらばり、へりだけに黒点が並ぶ。花は、まばらについて径 10～12mm、花弁は長さ 7～10mm、果実はめだってまるみをおびる。

被子植物 双子葉類 オトギリソウ科 アゼオトギリ

コクモウクジャク

福岡県絶滅危惧ⅠA類



シロヤマシダに類似するが、やや小型で葉質がより固く、葉面に少し光沢がある。葉柄基部には、黒色の鱗片が、密生する。

根の部分(黒い毛がある)

シダ植物 イワデントコ科 コクモウクジャク

＜植物の春季・秋季調査のまとめ＞

春季調査	科	種
シダ植物	14	23
裸子植物	1	2
被子植物	59	164
双子葉類	52	128
単子葉類	7	36
合 計	74 科	189 種

秋季調査	科	種
シダ植物	6	9
裸子植物	0	0
被子植物	46	112
双子葉類	40	84
単子葉類	6	28
合 計	52 科	121 種

春季及び秋季調査	科	種
シダ植物	15	32
裸子植物	1	2
被子植物	66	247
双子葉類	59	187
単子葉類	7	60
合 計	82 科	281 種

植物について、春季及び秋季の調査結果より重複種を整理すると 82 科 281 種の植物を確認（同定）できた。

これを過去の調査資料と比較すると、

- ・1991 年 大牟田生物愛好会の「大牟田市延命公園内の植物」調査資料では 299 種
- ・2001 年 大牟田市の「大牟田市自然環境調査報告書」では、83 科 241 種
- ・2003 年 大牟田生物愛好会の「大牟田の野生植物」では、82 科 243 種が報告されている。

今回の調査は、ルート調査で延命公園の面的な全域調査ではないが、過去二回の調査データと比較すると約 40 種多く確認することができた。さらに大きな成果は、国や県の絶滅危惧種に指定されているアゼオトギリの自生とコクモウクジャクを確認できたことである。延命公園は、保存すべき希少植物（保護対象）を有する貴重な森と言える。

[昆虫類・クモ類]

秋季調査では、以下の3目18科42種の昆虫類及び7科9種のクモ類を確認できた。

目科名	和名	目科名	和名
チョウ目	(11科28種)	スズメガ科	ホシホウジャク
アゲハチョウ科	アゲハチョウ	マダラガ科	ホタルガ
	ナガサキアゲハ		チャドクガ
	アオスジアゲハ		ミノガ
	キアゲハ	ミノガ科	チャミノガ
タテハチョウ科	アカタテハ	トンボ目	(1科6種)
	ヒメアカタテハ		
	キタテハ		
	ルリタテハ		
	ツマグロヒョウモン		
	コミスジ		
	イシガキチョウ		
ジャノメチョウ科	クロヒカゲ		
	クロノマチョウ	コウチュウ目	(3科5種)
	ヒメウラナミジャノメ		
シロチョウ科	モンシロチョウ	ハンミョウ科	ハンミョウ
	キチョウ		ニワハンミョウ
シジミチョウ科	ムラサキシジミ	ハムシ科	ウリハムシ
	ムラサキツバメ	カメムシ科	ジュウジカメムシ
	ウラナミシジミ		モンツキカメムシ
	ツバメシジミ	バッタ目	(3科3種)
	ヤマトシジミ		
ウラギンシジミ科	ウラギンシジミ		
セセリチョウ科	イチモンジセセリ	コオロギ科	エンマコオロギ
		イナゴ科	ツチイナゴ
		バッタ科	トノサマバッタ
		合 計	3目 18科 42種

目科名	和名	目科名	和名
クモ目	(7科9種)	コガネグモ科	コショウキグモ
アシナガグモ科	ジョロウグモ		ナガコガネグモ
タナグモ科	クサグモ	チリグモ科	ヒラタグモ
	コクサグモ	コモリグモ科	キクヅキコモリグモ
ジグモ科	ジグモ	ハエトリグモ科	アオオビハエトリ
		合 計	1目 7科 9種

<昆虫類・クモ類のまとめ>

春季調査では、9目39科59種の昆虫類と8科18種のクモ類、秋季調査では、3目18科42種の昆虫類と7科9種のクモ類を確認できた。

春季及び秋季調査での重複種を整理すると、昆虫類として84種、クモ類で23種を確認できた。さらに、自然植生の状況、落葉広葉樹林やシダ類、メダケ、ネザサなどの下草群、約280種の植物の存在などを考慮すると、夜間活動する蛾の仲間が100種以上生息していると思われる。

【鳥 類】

秋季調査では、以下の 3 目 7 科 9 種を確認した。

目科名	和名	目科名	和名
スズメ目	(5 科 6 種)	ハト目	(1 科 2 種)
スズメ科	スズメ	ハト科	アオバト
カラス科	ハシボソガラス ハシブトガラス		キジバト
ツバメ科	ツバメ	キツツキ目	(1 科 1 種)
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	キツツキ科	アオゲラ
ムクドリ科	ムクドリ	合 計	3 目 7 科 9 種

＜鳥類のまとめ＞

春季調査では 10 種、秋季調査で 9 種、重複種を整理すると 14 種を確認した。野鳥は、留鳥のほか、夏鳥、冬鳥の渡り鳥もいることから、春季と秋季の二回の調査だけでは全数の確認は困難である。

参考までに、平成 12 年 3 月の福岡県鳥類生息分布調査報告書(延命公園調査結果)では、以下のような野鳥が確認されている。重複種を除くと 38 種となる。

期日・天気	天気	確認された種(和名)
平成 11 年 5 月 16 日	晴	ワシタカ SP、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ (15 種)
平成 11 年 6 月 13 日	くもり	ダイサギ、キジバト、ホトギス、コゲラ、スズメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ (17 種)
平成 11 年 7 月 11 日	雨	キジバト、アオバト、カワセミ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス (10 種)
平成 11 年 8 月 15 日	くもり	キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ (11 種)
平成 11 年 10 月 3 日	晴	キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒヨドリ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、コムクドリ、ムクドリ、ハシブトガラス (14 種)
平成 11 年 11 月 14 日	晴	キジバト、コゲラ、キセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ヒタキ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ミヤマホオジロ、アトリ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (23 種)
平成 11 年 12 月 16 日	晴	ワシタカ SP、キジバト、コゲラ、ビンズイ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、シメ、カラス SP (17 種)

また、大牟田市自然環境調査報告書（2001 年 6 月発行）では、22 種の野鳥が確認されている。

【爬虫類・両生類】

秋季調査では、以下の1種類の爬虫類を確認した。

目名	科名	和名
トカゲ目	カナヘビ科	ニホンカナヘビ

＜爬虫類・両生類等のまとめ＞

春季調査では、絶滅危惧種のニホンヒキガエルのオタマジャクシ及びカスミサンショウウオの幼生の2種類の貴重な両生類を確認できた。

また、陸産貝類の絶滅危惧種キュウシュウナミコギセルも確認されるなど、延命公園は、植物に加え、両生類、陸産貝類の分野からも保存すべき希少生物(保護対象)を有する貴重な森と言える。

延命公園秋季調査図



調査員



ヤブミョウガ



ヌマダイコン



ヤブラン



アレチヌスビトハギ



ヨメナ



ツルボ



カクレミノ



トベラ



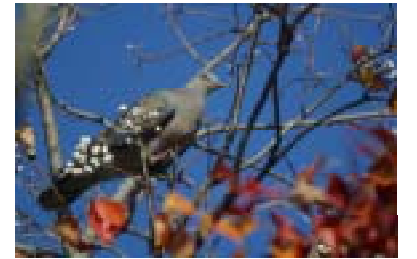
調査状況 地点 A



調査状況 地点 C



調査状況 地点 B



キジバト



クロコノマチョウ



レモンエゴマ

5 まとめ

延命公園は、大牟田市で最初の都市公園として整備される過程において、自然林に人為植栽が進行し、現在では、自然植生が残っている地域は東側の旧日本庭園周辺だけとなっている。

しかし、その旧日本庭園周辺で、植物ではコクモウクジャクやアゼオトギリを、両生類ではカスミサンショウウオの幼生やニホンヒキガエルの幼生を確認することができた。これらは国や県の絶滅危惧種に指定されている貴重な植物や生き物である。

また、公園北側で発見された陸産貝類のキュウシュウナミコギセルは、県の絶滅危惧種に指定されている。

今回の調査により、生物の生息環境や多様性に自然植生をはじめとして、落葉広葉樹林、多様な植物相、シダ類、メダケ、ネザサなどの下草群等が極めて重要であることがあらためて確認された。絶滅危惧種指定のカスミサンショウウオ、ニホンヒキガエル、コクモウクジャク、アゼオトギリ、キュウシュウナミコギセルなどが生息する延命公園の自然環境を保存するために、これらの貴重な生物の存在に深く注目し、継続的な観察や保護対策の検討が必要である。

サクラの名所として親しまれ、市民の身近な憩いの場である延命公園に、貴重な絶滅危惧種が生息する環境が残されていることを知り、その環境が今後も良好に保存されて行くことを願う。

大牟田市自然環境調査研究会

【参考とした文献・資料】

- (1)「大牟田の植物の話」 1991年3月 大牟田生物愛好会編集・発行
- (2)「大牟田市延命公園内の植物」調査資料 1991年5月～9月度大牟田生物愛好会調査
- (3)「大牟田市自然環境調査報告書」 2001年6月 大牟田市編集・発行
- (4)「大牟田の野生植物」 2003年9月 大牟田生物愛好会編集・発行

大牟田市自然環境調査研究会

大牟田市における自然環境の調査、研究等を行い、専門的な見地から助言等を行う、市長の委嘱を受けた機関です。

編集・発行 大牟田市環境部環境保全課
〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地
TEL:0944 (41) 2721 FAX:0944 (41) 2722
発行日 平成20年3月

参考資料

延命公園の調査年度による比較表

【植物】 1 1991 年：大牟田市延命公園内の植物調査資料（大牟田市生物愛好会調査）
2001 年：大牟田市自然環境調査報告書（大牟田市編集・発行）

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
アオイゴケ	ヒルガオ科	○		
アオカモジグサ	イネ科		○	
アオスゲ	カヤツリグサ科			○
アオツツラフジ	ツツラフジ科	○	○	○
アカネ	アカネ科			○
アカマツ	マツ科	○	○	○
アカメガシワ	トウダイグサ科	○	○	○
アキノエノコログサ	イネ科		○	
アキノキリンソウ	キク科	○	○	○
アキノタムラソウ	シソ科		○	○
アキノノゲシ	キク科	○	○	○
アケビ	アケビ科	○	○	○
アシボソ	イネ科	○	○	○
アゼオトギリ	オトギリソウ科			○
アセビ	ツツジ科	○		
アマチャズル	ウリ科		○	○
アメリカイヌホウズキ	ナス科			○
アメリカセンダングサ	キク科	○	○	○
アメリカディコ	マメ科	○		
アメリカフウロ	フウロソウ科			○
アラカシ	ブナ科	○	○	○
アレチギシギシ	タデ科	○	○	○
アレチヌスビトハギ	マメ科	○	○	○
アレチノギク	キク科	○	○	○
アレチマツヨイグサ	アカバナ科	○		○
イスノキ	マンサク科	○	○	
イズハハコ	キク科		○	
イズホウコ	キク科	○		
イタチガヤ	イネ科	○	○	○
イチョウ	イチョウ科	○		
イヌガラシ	アブラナ科		○	○
イヌシダ	イノモトソウ科	○	○	
イヌタデ	タデ科	○	○	○
イヌツゲ	モチノキ科	○	○	
	小計	23 種	23 種	23 種

【植物】 2

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
イヌビユ	ヒユ科	○	○	○
イヌビワ	クワ科	○	○	○
イヌホオズキ	ナス科		○	○
イヌマキ	マキ科	○		
イヌワラビ	オシダ科	○		
イノコヅチ	ヒユ科	○	○	○
イノデ	オシダ科	○	○	○
イノモトソウ	イノモトソウ科	○	○	○
イボクサ	ツユクサ科	○	○	○
イロハカエデ	カエデ科	○		
イワニガナ	キク科		○	○
ウシハコベ	ナデシコ科	○	○	○
ウスベニチチコグサ	キク科			○
ウマゴヤシ	マメ科	○	○	
ウマノアシガタ	キンポウゲ科			○
ウラジロ	ウラジロ科	○	○	○
ウラジロチチコグサ	キク科			○
ウラジロハコヤナギ	ヤナギ科	○		
エゾ(ノ)ギシギシ	タデ科	○	○	
エノキ	ニレ科	○	○	○
エノコログサ	イネ科		○	○
エビヅル	ブドウ科	○	○	○
オウゴンヒバ	ヒノキ科	○		
オオアレチノギク	キク科	○	○	○
オオイヌホオズキ	ナス科			○
オオオナモミ	キク科			○
オオカグマ	シシガラシ科	○	○	○
オオカナワラビ	オシダ科	○	○	○
オオジシバリ	キク科	○		○
オオチドメ	セリ科			○
オオニシキソウ	トウダイグサ科			○
オオバウマノスズクサ	ウマノスズクサ科	○	○	○
オオバノイノモトソウ	イノモトソウ科		○	○
オオバコ	オオバコ科	○	○	○
オオヒメワラビ	オシダ科	○		
オオシマザクラ	バラ科			○
オオフユイチゴ	バラ科			○
	小計	24 種	21 種	29 種

【植物】 3

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
オオベニシダ	オシダ科	○		
オカトラノオ	サクラソウ科	○	○	○
オカメザサ	イネ科	○		
オシロイバナ	オシロイバナ科			○
オッタチカタバミ	カタバミ科	○		
オニウシノゲサ	イネ科		○	○
オニタビラコ	キク科	○	○	○
オニヤブソテツ	オシダ科	○		○
オニユリ	ユリ科		○	○
オヒシバ	イネ科		○	○
オヘビイチゴ	バラ科		○	○
オヤブジラミ	セリ科	○	○	○
オランダミナグサ	ナデシコ科	○	○	○
カイヅカイブキ	ヒノキ科	○		
カエデドコロ	ヤマノイモ科	○	○	○
カクレミノ	ウコギ科	○	○	○
カゼクサ	イネ科	○	○	○
カタバミ	カタバミ科	○	○	○
カナリーヤシ	ヤシ科	○		
カニクサ	フサシダ科	○	○	○
カニツリグサ	イネ科	○	○	○
ガマズミ	スイカズラ科	○		
カモガヤ	イネ科	○	○	○
カモジグサ	イネ科	○	○	○
カラクサナズナ	アブラナ科	○	○	○
カラスウリ	ウリ科	○	○	○
カラスザンショウ	ミカン科	○	○	○
カラスノエンドウ	マメ科		○	○
カラムシ	イラクサ科			○
ガンクビソウ	キク科		○	○
キカラスウリ	ウリ科			○
キキョウソウ	キキョウ科	○	○	○
ギシギシ	タデ科	○	○	○
キジノオシダ	キジノオシダ科	○	○	○
キジョラン	ガガイモ科		○	
キショウブ	アヤメ科			○
キツタ	ウコギ科	○	○	○
キツネアザミ	キク科	○	○	
	小計	27 種	27 種	30 種

【植物】 4

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
キツネノボタン	キンポウゲ科	○	○	○
キツネノマゴ	キツネノマゴ科	○	○	○
キュウリグサ	ムラサキ科	○	○	○
ギョウギシバ	イネ科	○	○	○
キランソウ	シソ科	○	○	○
キンエノコロ	イネ科		○	○
キンシバイ	オトギリソウ科	○		
キンモクセイ	モクセイ科	○		
クサイ	イグサ科		○	○
クサイチゴ	バラ科	○	○	○
クサギ	クマツヅラ科		○	○
クサヨシ	イネ科	○	○	○
クズ	マメ科	○	○	○
クスノキ	クスノキ科	○	○	○
クチナシ	アカネ科	○		
クヌギ	ブナ科	○		○
クロガネモチ	モチノキ科	○	○	○
クロキ	ハイノキ科	○	○	○
クロマツ	マツ科		○	○
クロミノサワフタギ	ハイノキ科	○	○	○
ケアリタソウ	アカギ科		○	
ゲジゲジシダ	オシダ科	○	○	○
ケテイカカズラ	キョウチクトウ科	○	○	
ケヤキ	ニレ科	○		
コガクウツギ	ユキノシタ科	○	○	
コギシギシ	タデ科			○
ゴキダケ	イネ科		○	
コクモウクジャク	メシダ科			○
コシダ	ウラボシ科	○	○	○
コスミレ	スミレ科	○	○	○
コチジミザサ	イネ科			○
コナスビ	サクラソウ科	○	○	○
コナラ	ブナ科	○	○	○
コニシキソウ	トウダイグサ科	○	○	○
コヌカグサ	イネ科	○		○
コハシゴシダ	オシダ科	○	○	○
コバノウシノシッペイ	イネ科	○	○	○
コヒルガオ	ヒルガオ科	○		
コブシ	モクレン科	○		
	小計	30 種	28 種	29 種

【植物】 5

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
コブナグサ	イネ科	○	○	○
コマツナギ	マメ科	○	○	○
コマツヨイグサ	アカバナ科			○
コメツブツメクサ	マメ科			○
コメヒシバ	イネ科	○	○	○
コモチマンネングサ	ベンケイソウ科			○
ゴンズイ	ミツバウツギ科		○	○
サカキカズラ	キョウチクトウ科		○	
サギゴケ	ゴマノハグサ科	○		
サケバヒヨドリ	キク科			○
ササガヤ	イネ科	○	○	
ササクサ	イネ科	○	○	○
サザンカ	ツバキ科	○		
サツキ	ツツジ科	○		
サネカズラ (ビナンカズラ)	マツブサ科	○	○	○
サルスベリ	ミソハギ科	○		
サルトリイバラ	ユリ科	○	○	○
サワオトギリ	オトギリソウ科		○	
サンゴジュ	スイカズラ科	○		
シケシダ	オシダ科	○	○	○
シケチシダ	イワデンタ科		○	○
シシバリ	キク科	○		
シナサワグルミ	クルミ科	○		
シバ	イネ科			○
シマカンギク	キク科	○	○	
シャガ	アヤメ科			○
シャシャンボ	ツツジ科			○
ジャノヒゲ	ユリ科	○		
シャリンバイ	バラ科	○		
ジュズスゲ	カヤツリグサ科	○	○	○
ジュズダマ	イネ科	○		
シュロ	ヤシ科	○		
シュロガヤツリ	カヤツリグサ科			○
シラスゲ	カヤツリグサ科	○	○	○
シロザ	アカザ科	○	○	○
シロダモ	クスノキ科	○	○	○
シロツメクサ	マメ科	○	○	○
シロバナキツネノマゴ	キツネノマゴ科	○		
ジンチョウゲ	ジンチョウゲ科	○		
	小計	27 種	18 種	22 種

【植物】 6

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
シンミズヒキ	タデ科		○	○
スイカズラ	スイカズラ科	○	○	○
スギ	ヒノキ科	○		
スギナ	トクサ科	○	○	○
ススキ	イネ科	○	○	○
スズナ	アブラナ科		○	
スズメノカタビラ	イネ科	○	○	○
スズメノテッポウ	イネ科	○		○
スズメノヤリ	イネ科	○	○	○
スベリヒユ	スベリヒユ科		○	
スマレ	スマレ科	○	○	
セイタカアワダチソウ	キク科	○	○	○
セイヨウタンポポ	キク科	○	○	○
セリ	セリ科		○	○
センダン	センダン科	○	○	○
センダングサ	キク科	○	○	
ゼンマイ	ゼンマイ科	○	○	○
ソテツ	ソテツ科	○		
タチイヌノフグリ	ゴマノハグサ科	○	○	○
タチクラマゴケ	イワヒバ科	○	○	○
タチシノブ	ホウライシダ科			○
タチツボスミレ	スミレ科	○	○	○
タニイヌワラビ	イワデント科		○	
タネツケバナ	アブラナ科			○
タブノキ	クスノキ科	○	○	○
タラノキ	ウコギ科	○	○	○
チガヤ	イネ科	○	○	○
チカラシバ	イネ科	○	○	○
チシャノキ	ムラサキ科	○	○	○
チチコグサ	キク科	○	○	○
チチコグサモドキ	キク科	○	○	○
チヂミザサ	イネ科	○	○	
チドメグサ	セリ科	○		
チャノキ	ツバキ科	○		
チャボヒバ	ヒノキ科	○		
チョウセンレンギョウ	モクセイ科	○		
ツボクサ	セリ科	○	○	○
	小計	30 種	28 種	25 種

【植物】 7

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
ツボスミレ	スミレ科	○	○	○
ツメクサ	ナデシコ科	○	○	○
ツユクサ	ツユクサ科	○	○	○
ツルウメモドキ	ニシキギ科	○	○	○
ツルボ	ユリ科			○
テイカカズラ	キョウチクトウ科	○	○	○
トウカエデ	カエデ科	○		
トウゴクシダ	オシダ科			○
ドウダンツツジ	ツツジ科	○		
トウチク	イネ科	○		
トウネズミモチ	モクセイ科	○		○
トウバナ	シソ科	○	○	○
トキワススキ	イネ科	○	○	○
トキワハゼ	ゴマノハグサ科	○	○	○
ドクダミ	ドクダミ科	○	○	○
トベラ	トベラ科	○		○
トボシガラ	イネ科	○	○	○
トラノオシダ	チャセンシダ科	○	○	○
トラノオスズカケ	ゴマノハグサ科	○		
ナガバノイタチシダ	オシダ科	○	○	○
ナズナ	アブラナ科	○		○
ナツツタ (ツタ)	ウコギ科	○		○
ナツツバキ	ツバキ科			○
ナツフジ	マメ科	○	○	○
ナナミ (メ) ノキ	モチノキ科	○	○	○
ナワシロイチゴ	バラ科	○	○	○
ナワシログミ	グミ科	○	○	○
ナンキンハゼ	トウダイグサ科	○		
ナンバンカラムシ	イラクサ科	○		○
ニオイセンネンボク	ユリ科	○		
ニガカシュウ	ヤマノイモ科	○	○	○
ニガナ	キク科			○
ニシキウツギ	スイカズラ科	○		
ニセアカシヤ	マメ科	○		
ニワゼキショウ	アヤメ科	○	○	○
ニワトコ	スイカズラ科	○		
ニワホコリ	イネ科	○		○
ヌカボ	イネ科	○		○
ヌスビトハギ	マメ科	○	○	○
	小計	35 種	19 種	30 種

【植物】 8

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
ヌマダイコン	キク科	○	○	○
ヌルデ	ウルシ科	○	○	○
ネコハギ	マメ科	○	○	○
ネザサ	イネ科	○	○	○
ネジキ	ツツジ科	○	○	○
ネズミムギ	イネ科	○	○	○
ネズミモチ	モクセイ科	○	○	○
ネムノキ	マメ科	○	○	○
ノイバラ	バラ科	○	○	○
ノキシノブ	ウラボシ科	○	○	○
ノゲシ	キク科	○	○	○
ノチドメ	セリ科	○	○	○
ノハカタカラクサ	ツユクサ科			○
ノブドウ	ブドウ科	○	○	○
ノボリギク (ノボロギク)	キク科		○	○
ノミノフスマ	ナデシコ科	○	○	○
ハイニシキソウ	トウダイグサ科			○
ハイメドハギ	マメ科	○	○	○
ハクサンボク	スイカズラ科	○	○	○
ハクチョウゲ	アカネ科	○		
ハゼノキ	ウルシ科	○	○	○
ハハコグサ (ホウコグサ)	キク科	○	○	
バショウ	バショウ科	○		
ハナイバナ	ムラサキ科			○
ハナツクバネウツギ	スイカズラ科	○		
ハナニガナ	キク科			○
ハナミズキ	ミズキ科	○		
ハマスゲ	カヤツリグサ科	○	○	○
ハマヒサカキ	ツバキ科	○		
ハリガネウラボ	オンダ科	○	○	
ハルジオン	キク科	○		
ヒイラギ	モクセイ科	○		
ヒイラギナンテン	メギ科	○		
ヒイラギモクセイ	モクセイ科	○		
ヒエガエリ	イネ科	○	○	
ヒカゲイノコズチ	ヒユ科	○		
ヒサカキ	ツバキ科	○	○	○
ヒナタイノコズチ	ヒユ科	○	○	○
	小計	33 種	24 種	25 種

【植物】 9

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
ヒノキ	ヒノキ科	○		
ヒマラヤスギ	マツ科	○		
ヒメウズ	キンポウゲ科	○		
ヒメコバンソウ	イネ科	○	○	○
ヒメジソ	シソ科			○
ヒメジョオン	キク科	○	○	○
ヒメスミレ	スミレ科			○
ヒメヒオウギズイセン	アヤメ科			○
ヒメムカシヨモギ	キク科	○	○	○
ヒメモエギスゲ	カヤツリグサ科			○
ヒメワラビ	ヒメシダ科		○	○
ビヨウヤナギ	オトギリソウ科	○		
ヒヨドリバナ	キク科	○	○	○
ヒラドツツジ	ツツジ科	○		
ヒルガオ	ヒルガオ科	○		
フジ	マメ科	○		
フシグロ	ナデシコ科		○	
フモトシダ	イノモトソウ科	○	○	○
フユイチゴ	バラ科	○	○	○
ヘクソカズラ(ヤイトバナ)	アカネ科	○	○	○
ベニシダ	オンシダ科	○	○	○
ベニバナボロギク	キク科	○	○	○
ヘビイチゴ	バラ科	○	○	○
ホシダ	オンシダ科	○	○	○
ホソバアキノノゲシ	キク科			○
ホソバイヌビワ	クワ科	○		○
ホソバタブ	クスノキ科	○		
ホタルブクロ	キキョウ科	○		
ホラシノブ	イノモトソウ科	○	○	○
マコモ	イネ科			○
マサキ	ニシキギ科	○		○
マツバゼリ	セリ科	○		○
マテバジイ	ブナ科	○		
マメイヌツゲ	モチノキ科	○		
マメグンバイナズナ	アブラナ科	○	○	○
マメザクラ	バラ科	○		
マメヅタ	ウラボシ科		○	○
マユミ	ニシキギ科	○	○	○
	小計	29 種	17 種	25 種

【植物】 10

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
マンリョウ	ヤブコウジ科	○	○	○
ミズヒキ	タデ科		○	○
ミゾイチゴツナギ	イネ科	○	○	○
ミゾカクシ	キキョウ科		○	○
ミゾシダ	オシダ科	○		
ミゾソバ	タデ科	○	○	○
ミツバ(みつばせり)	セリ科	○	○	○
ミツバアケビ	アケビ科	○		
ミドリハコベ	ナデシコ科	○	○	○
ミョウガ	ショウガ科	○	○	
ムクノキ	ニレ科	○	○	○
ムベ	カタバミ科		○	○
ムラサキカタバミ	カタバミ科	○	○	○
メアゼテンツキ	イネ科			○
メダケ	イネ科	○	○	○
メタセコイヤ(アケボノスキ)	スギ科	○		
メドハギ	マメ科	○	○	○
メヒシバ	イネ科	○	○	○
メマツヨイグサ	アカバナ科		○	
メリケントキンソウ	キク科	○		○
モッコク	ツバキ科	○		
ヤエムグラ	アカネ科	○		○
ヤツデ	ウコギ科	○		○
ヤノネグサ	タデ科			○
ヤハズソウ	マメ科	○	○	○
ヤブガラシ	ブドウ科	○	○	○
ヤブコウジ	ヤブコウジ科	○	○	○
ヤブジラミ	セリ科	○	○	○
ヤブソテツ	オシダ科		○	○
ヤブタビラコ	キク科			○
ヤブツバキ	ツバキ科	○		
ヤブニッケイ	クスノキ科	○	○	○
ヤブニンジン	セリ科	○	○	○
ヤブヘビイチゴ	バラ科			○
ヤブマオ	イラクサ科	○	○	○
ヤブマメ	マメ科	○	○	○
ヤブミョウガ	ツユクサ科	○	○	○
ヤブムラサキ	クマツヅラ科			○
	小計	28 種	25 種	31 種

【植物】 1 1

和名	科名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
ヤブラン	ユリ科	○	○	○
ヤマヌカボ	イネ科	○	○	○
ヤマノイモ	ヤマノイモ科	○	○	○
ヤマブキ	バラ科	○		
ヤマフジ	マメ科			○
ヤマモモ	ヤマモモ科	○	○	○
ヤワラシダ	オシダ科	○	○	○
ヨウシュヤマゴボウ (アメリカヤマゴボウ)	ヤマゴボウ科	○	○	○
ヨメナ	キク科	○	○	○
ヨモギ	キク科	○	○	○
リョウブ	リョウブ科	○	○	○
レモンエゴマ	シソ科	○	○	○
ワシントンヤシ	ヤシ科	○		
ワラビ	ワラビ科	○	○	○
	小計	13 種	11 種	12 種
	合計	299 種	241 種	281 種

【昆虫類】 1

目名	科名	和名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
トンボ目	オニヤンマ科	オニヤンマ	○		
	ヤンマ科	マルタンヤンマ	○		
		サラサヤンマ	○	○	
		カトリヤンマ	○		
		ヤブヤンマ			○
		クロスジギンヤンマ	○		○
		ギンヤンマ	○		
	トンボ科	ウスバキトンボ	○		
		コシアキトンボ	○		○
		シオカラトンボ	○		○
		オオシオカラトンボ	○		○
		チョウトンボ	○		
		ノシメトンボ	○		○
		マユタテアカネ	○		○
		ネキトンボ	○		
		ハネビロトンボ		○	○
		ハラボソトンボ		○	○
		コフキトンボ	○		
	カワトンボ科	ハグロトンボ	○		○
	エゾトンボ科	コヤマトンボ	○		
	サナエトンボ科	タイワンウチワヤンマ	○		
	アオイトトンボ科	アオイトトンボ	○		
	イトトンボ科	アジアイトトンボ	○		
		アオモンイトトンボ			○
		キイトトンボ	○		
	モノサシトンボ科	モノサシトンボ	○		
カメムシ目	セミ科	アブラゼミ	○		
		クマゼミ	○		
		ツクツクボウシ	○		
		ニイニイゼミ	○		
		ハルゼミ	○	○	
	コオイムシ科	コオイムシ		○	
	ツチカメムシ科	ベニツチカメムシ		○	
	オオホシカメムシ科	ヒメホシカメムシ			○
		オオホシカメムシ			○
	カメムシ科	アオクサカメムシ			○
	ホソヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ			○
	サシガメ科	ヨコズナサシガメ			○
	アメンボ科	アメンボ			○
		小計	27 種	6 種	17 種

【昆虫類】 2

目名	科名	和名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
コウチュウ目	マツモムシ科	マツモムシ			○
	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ			○
	ハムシ科	ウリハムシ			○
		クロウリハムシ			○
		イタドリハムシ			○
	オトシブミ科	オトシブミ			○
	ナナホシテントウ科	ナナホシテントウ			○
		ニジュウヤホシテントウ			○
	コガネムシ科	アオカナブン	○		
		カナブン	○		
		カブトムシ	○		
		クロマルエンマコガネ	○		
		セマダラマグソコガネ	○		
		ヒラタハナムグリ	○		
		コアオハナムグリ			○
		ミツノエンマコガネ	○	○	
	センチコガネ科	センチコガネ	○		○
	カミキリムシ科	オオシロカミキリ	○	○	
		キクスイカミキリ	○		
		クスベニカミキリ	○		
		クロカミキリ	○		
		クワカミキリ	○		
		ゴマダラカミキリ	○		
		ブドウトラカミキリ	○		
		ベニイロカミキリ	○		
		ノコギリカミキリ	○		
		ホタルカミキリ	○		
		マツノマダラカミキリ	○		
		ラミーカミキリ	○		○
	クワガタムシ科	コクワガタ	○		
		ヒラタクワガタ	○		
		ノコギリクワガタ	○		
	ゾウムシ科	オシロアシナガゾウムシ			○
	シデムシ科	オオヒラタシデムシ			○
	ホソクビゴミムシ科	ミイデラゴミムシ			○
	ジョウカイボン科	ジョウカイボン			○
	ゴミムシダマシ科	キマワリ			○
	ホタル科	ムネクリイロボタル	○	○	○
		小計	24 種	3種	17種

【昆虫類】 3

目名	科名	和名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
	カメムシ科	ジュウジカメムシ			○
		モンツキカメムシ			○
	ハンミョウ科	ハンミョウ		○	○
		ニワハンミョウ			○
バッタ目	コオロギ科	エンマコオロギ			○
	バッタ科	トノサマバッタ			○
		ショウリョウバッタ			○
	オンブバッタ科	オンブバッタ			○
	イナゴ科	ツチイナゴ			○
カマキリ目	オオカマキリ科	オオカマキリ			○
ハチ目	ミツバチ科	キムネクマバチ			○
ハエ目	ミバエ科	ウリミバエ SP			○
	ハナアブ科	ヒラタアブ SP			○
ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ			○
チョウ目	アゲハチョウ科	アゲハチョウ	○		○
		シャコウアゲハ	○		
		キアゲハ	○		○
		クロアゲハ	○		○
		モンキアゲハ	○		○
		ナガサキアゲハ	○		○
		アオスジアゲハ	○		○
		ミカドアゲハ	○	○	
		カラスアゲハ	○		
		シロチョウ科	モンシロチョウ	○	
	スジグロシロチョウ		○		
	キチョウ		○		○
	ツマキチョウ		○		
	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	○		○
		コチャバネセセリ	○		
		ダイミョウセセリ	○		
		クロセセリ	○	○	
		キマダラセセリ	○		
	シジミチョウ科	ムラサキシジミ	○		○
		ムラサキツバメ	○		○
			小計	20 種	3 種

【昆虫類】 4

目名	科名	和名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査	
		ゴイシシジミ	○	○		
		ウラナミシジミ			○	
		ツバメシジミ	○		○	
		ヤマトシジミ	○		○	
		ルリシジミ	○		○	
		サツマシジミ	○	○		
		ベニシジミ	○		○	
		トラフシジミ	○	○		
	ウラギンシジミ科	ウラギンシジミ	○		○	
	タテハチョウ科	アサギマダラ	○			
		ヒオドシチョウ	○			
		ゴマダラチョウ	○			
		イシガキチョウ	○		○	
		コムラサキ	○	○		
		キタテハ	○		○	
		ルリタテハ	○		○	
		アカタテハ	○		○	
		ヒメアカタテハ	○		○	
		テングチョウ		○		
		タテハモドキ		○		
		メスアカムラサキ		○		
		ツマグロヒョウモン	○		○	
		コムスジ	○		○	
		ジャノメチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	○		○
			ヒメジャノメ	○		
	クロヒカゲ		○		○	
	サトキマダラヒカゲ		○			
	クロコノマチョウ		○		○	
	テングチョウ科	テングチョウ	○			
	シャクガ科	ユウマダラエダシャク		○	○	
	イラガ科	ヒロヘリアオイラガ			○	
	スズメガ科	ホシホウジャク			○	
	マダラガ科	ホタルガ			○	
	ドクガ科	チャドクガ			○	
	ミノガ科	ミノガ			○	
		チャミノガ			○	
		小計	23 種	8 種	25 種	
		合計	97 種	20 種	84 種	

【鳥類】 1

目名	科名	和名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	○	○	○
		ハシブトガラス	○	○	○
		ミヤマガラス	○	○	
		コクマルガラス		○	
		カササギ	○	○	
		アオゲラ			○
	ハタオドリ科	ニュウナイスズメ		○	
		スズメ	○	○	○
	ホオジロ科	ホオジロ	○	○	
		ミヤマホオジロ	○		
		カシラダカ	○	○	
		アオジ	○	○	
		クロジ	○	○	
	アトリ科	アトリ		○	
		カワラヒワ	○	○	
		マヒワ	○	○	
		シメ	○	○	
		イカル	○	○	
	シジュウカラ科	シジュウカラ	○		○
		ヤマガラ	○		
		コガラ	○		
	ヒタキ科	ルリビタキ	○		
		ジョウビタキ	○	○	
		ノビタキ	○	○	
		ツグミ	○	○	
		トラツグミ	○		
		シロハラ	○		
		アカハラ	○		
		オオルリ	○		
		ウグイス	○		○
	エナガ科	エナガ	○		○
	ヒバリ科	ヒバリ		○	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○
	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○
		コムクドリ	○		
	ツバメ科	ツバメ	○	○	
		小計	31 種	23 種	9 種

【鳥類】 2

目名	科名	和名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
	セキレイ科	キセキレイ	○		
		ハクセキレイ	○		
		ビンズイ		○	
		タヒバリ		○	
	メジロ科	メジロ	○		
	モズ科	モズ	○	○	
	レンジャク科	キレンジャク	○	○	
		ヒレンジャク	○	○	
コウノトリ目	サギ科	コイサギ	○		
		コサギ	○		
		アマサギ	○	○	
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	○		○
		アリスイ	○		
ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○
		アオバト	○		○
キジ目	キジ科	コジュケイ	○		
チドリ目	シギ科	ヤマシギ	○		
	ツバメチドリ科	ツバメチドリ	○		○
ホトトギス目	ホトトギス科	ホトトギス	○		
		カッコウ	○		
フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	○		
		アオバズク	○		
		コミズク		○	
ワシタカ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	○	○	
		ハヤブサ		○	
	ワシタカ科	ノスリ	○		
		トビ	○		
		ハイタカ		○	
		小計	23 種	11 種	4 種
		合計	54 種	34 種	13 種

【爬虫類】

目名	科名	和名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
有鱗目	カナヘビ科	カナヘビ	○		○
	トカゲ科	ニホントカゲ	○	○	
	ヤモリ科	ニホンヤモリ	○		
	ナミヘビ科	アオダイショウ	○		
		シマヘビ	○	○	
		ヤマカガシ	○		
		ヒバカリ	○		
	クサリヘビ科	マムシ	○		
		合計	8 種	2 種	1 種

【両生類】

目名	科名	和名	1991 年	2001 年	2007 年 今回調査
カエル目	アカガエル科	ツチガエル	○		
		トノサマガエル	○		
	アマガエル科	アマガエル	○		
	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	○	○	○
サンショウウオ目	サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	○	○	○
		合計	5 種	2 種	2 種